

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	医療法人社団 千寿会		
事業所名	高齢者グループホーム プラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501248&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・一人ひとりのこだわりや価値観を理解し、迅速に対応できるように日々努力している。</p> <p>・自分らしさを発揮できるように、常に柔軟な対応を心がけている。</p> <p>・登別の豊かな自然を利用し、天気の良い日には積極的に外出を行っている。</p> <p>・地域の方々との交流も少しずつ増えてきていると感じている。利用者が社会との繋がりを感じて生活できるようにしていきたい。</p> <p>特別な事をしようとせず、当たり前のことを当たり前、目の前に存在する「人」と関わることを優先に考え実践しています。</p> <p>開放感のある雰囲気の中、明るく、元気なスタッフが多数、アットホームな事業所です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームプラタナス三愛では、2ヶ月に1度の運営推進会議に町内会会長と老人会会長が毎回出席してくれるなど、協力的で町内会との関係は良い。会議には行政の担当者のほか交番や消防署の方々も出席し、活発な情報交換を行っている。日々の外出の時には気軽に近くのレストランや蕎麦屋に立ち寄り声をかけ合っているの、餅つきに蕎麦屋のご主人が参加してくれるなど近隣との交流も盛んである。施設長は社員教育に力を注いでおり、全職員を順番に外部研修に参加させ、伝達講習会で報告してもらうなどの試みをしている。定例の会議でも職員は活発に意見を出している。職員は全員が利用者に優しい言葉をかけ、利用者一人ひとりの思いに沿った良質なケアを実践している。食事も利用者の大きな楽しみであり、「味で楽しむ、目で楽しむ」をモットーにユニットごとに利用者の好みを取り入れた献立を立てている。お誕生日には本人の好きなお寿司や赤飯を用意し、全員で楽しんでる。畑で収穫した旬の野菜も食卓を楽しませてくれる。また、盛り付けにもこだわり、利用者の好みに応じて別皿に取り分けるなどの工夫をしている。入浴は、時間帯、回数とも希望に応じた対応をしており、毎日でも入浴が可能である。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>各自、意識し実践している。</p> <p>ミーティングやカンファレンスでも理念を意識した話し合いを行っている。</p>	<p>事業所開設時に法人で作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた運営方針を理念として共用空間に掲示しているほか、名札の裏面に理念が記載されたものを職員が携帯している。今後は職員全員で話し合い、ユニットごとのケア理念を作りたいと考えている。</p>	<p>法人の理念に加えて、各ユニットで話し合いを重ね、新たなケア理念を全職員で作り上げていくことを期待したい。</p>
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会の行事(お祭りなど)に参加、老人クラブの方々が事業所に訪れたりと交流を持っているが、日常的な交流までは実践できていないので、今後も積極的に働きかけていきたい。</p>	<p>町内会・老人会会長が運営推進会議に毎回出席し、事業所の状況を理解しアドバイスしてもらっていることから、町内との交流は深まっている。外出の際には近隣のレストランや蕎麦屋などに気軽に立ち寄っている。正月の餅つきには蕎麦屋のご主人が参加してくれるなど日常的な交流は盛んである。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設長がホームヘルパー2級養成校の非常勤講師となっている。また、実習生の受け入れも行っている。</p> <p>地域住民の勉強会に施設長が講師として行く予定もある。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で事業所の活動や利用者の状況を報告している。検討事項などについても会議の場で話し合い、意見を頂いている。</p>	<p>会議には、地域包括支援センター職員、町内会・老人会会長、利用者家族に加え、交番や消防署の方々にも出席してもらっており、活動報告、避難訓練、サービス評価などについて活発に意見交換をしている。会議の議事録は全家族宛に送っている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>機会があれば、施設長が市役所担当課へ出向き、報告や指示を頂いている。</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの担当者に毎回参加してもらっている。また、市の担当者には、困ったことや分からないことがあればその都度相談している。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>安全を常に意識しながら、生活重視の認識を持ち、自由な暮らしを支えるようにしている。</p> <p>毎年、研修会へスタッフを参加させている。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを整備し、スタッフルームに備え付けている。また、毎年開催される身体拘束に関する外部研修には職員を順に参加させ、特に重要な内容の時は定例会議以外に伝達講習会を開いて報告してもらい、全員で共有している。日中、玄関は施錠せず、センサーを取り付けて人の出入りが分かるようにしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングやカンファレンスで不適切なケアが行われていないかを話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が社会福祉士であり、対応が必要なケースは施設長が行うことになる。そのため、全スタッフが制度を理解している状態とは言えず、万全の体制とは言えない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取組み、事業所でできること、できないことを明確に説明するようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、ご家族の意見や要望を面会時に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望はミーティングで話し合い反映させている。	玄関に「目安箱」を設置しているほか、家族の来訪時に意見を聞いている。また、毎月、利用者別に写真入りの「さくら坂通信別号」を家族宛に送付している。通信欄を利用して、運営推進会議への意見も募っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を増やし、スタッフが意見できる機会を設け、反映させるようにしているが、十分とは言えないと考えている。	職員は日頃から意見や要望、提案を気軽に管理者や施設長に伝えている。また、毎月のユニット会議、2ヶ月に1度の全体会議でも職員は活発に意見を述べている。毎年的人事考課・個人面談では施設長が一人ひとりの話をゆっくり聞き、休日シフトも職員の意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、スタッフが向上心を持って働ける環境に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会を実施したり、外部の研修を計画的に受講できるように努めている。様々な研修会の情報をスタッフに提供し、全員が研修を受講できる機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会へ参加し他のグループホームスタッフと交流できる機会があり、サービスの質を向上させるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長・管理者が利用の開始前には、必ずご本人に会い状態を確認しスタッフへ伝達している。スタッフは本人の思いに耳を傾け、スタッフがご本人に受入れて頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長・管理者がご家族の苦勞や、求めていることをゆっくり聴くようにしている。ご家族として、困っていることを理解し、事業所として何が出来るかを事前に話し合っている。スタッフはその内容の伝達を受け、その後の支援に繋げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時、ご本人、ご家族の思いや状況等を確認し、支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者と共に暮らすパートナーとして、こだわりや価値観など本人の思いを共感し、共に支える関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていけるよう、これまでの関係も踏まえ、利用者の様子やスタッフの思いを伝えるようにしている。伝えることで、ご家族とスタッフの思いが徐々に重なり、より良い関係が気付けるものと考えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービスが事業所内で完結しないよう意識している。ご本人が地域や地域住民との関係を継続できるよう、ご本人を支えながら、情報収集を行い積極的にアプローチするよう心がけている。	利用者の友人が時々訪問してくれるので、職員は雰囲気や状況に応じて居間や居室に案内し、お茶やお菓子を出して楽しく話ができるよう配慮している。また利用者の希望に応じて行き付けの美容室や自宅、近所の喫茶店と一緒にやっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、楽しく過ごせる場面設定をするなど、利用者同士うまくいくように、スタッフが調整役となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方の所へ、遊びに行ったり、行事に招いたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、「ご本人はどうか」という視点に立ち話し合いを行い支援に繋げるようにしている。	利用開始時に家族や医療機関などからの情報を得て作成したセンター方式のアセスメントを基に、利用者との日常の係わりの中で表情や態度から思いや意向を把握している。また、家族からの情報や日々の気付きは申し送りノートで共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、情報の収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、カンファレンス、申し送り等で話し合い、把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にスタッフは担当制を導入し、意見やアイデアを反映させている。 ご家族へは面会の時など時間を頂き、話し合いの場を設け、意見を反映しているが、まだまだ十分とは言えない。	利用開始時から2週間を目途に介護計画を作成し、その後は全職員の意見や申し送りノートを参考に、担当職員による1ヶ月に1度の月評価、計画作成担当者も加えた3ヶ月ごとのモニタリングで、3ヶ月から6ヶ月、ケースによってはそれ以下或いはそれ以上の期間で見直している。介護計画は家族等に説明し、納得の上で署名捺印を得ている。	現在はセンター方式を採用したばかりであり、管理者(計画作成担当者)が主となり介護計画を作成しているが、今後は管理者の指導の下に担当職員のスキルアップを図り、介護計画の見直し期間を短縮していきたいとのことであり、その取り組みに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護記録、申し送りに記載し、全スタッフが共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、買物などは都度対応している。 町内会のお祭りにも参加している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の協力を頂き行事を開催したり、火災避難訓練への参加も呼びかけている。運営推進会議には毎回、消防、警察からの参加もある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の受診継続を勧めているが、殆どの方が運営法人の病院に定期受診している。 運営法人の病院から毎週看護師の定期的な訪問があり、利用者の健康管理を行い、主治医に報告している。	協力医療機関には、精神科や歯科、歯科口腔外科など診療科目が豊富で、毎週の訪問看護もあるなど医療面は充実しているが、従来のかかりつけ医を選択することは自由である。また、医療情報は「個別経過介護記録」に記録し職員間で共有しているが、特に医療関係についての整理はしていない。	個人ファイルに見出しを付けて整理したり、医療用の専用ファイルを作成するなどの工夫で、医療経過をすぐ確認できるような取り組みを期待したい。また、重度化した場合の家族との話し合いの記録も同様に整理されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回定期的な訪問があり利用者の健康管理を行っている。日頃の様子から、心配な事でも気軽に相談している。利用者とも馴染みの関係ができており、訪問を楽しみにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やソーシャルワーカー、家族と状況の確認をしながら、早期に退院ができるように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、早期に家族へ説明を行っている。実際にその状況に至った時には再度説明を行い、ご家族が理解、納得した上で進めていきたいと思っているが、現状ではまだ経験はない。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」を本人及び家族に説明し、納得の上で同意書ももらっている。状況が変化した場合は都度話し合い、「個別経過介護記録」に記録している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全スタッフが閲覧できるようにしているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 年1回夜間想定では町内会への協力も依頼するようにしている。	消防署の協力を得て、昼間と夜間想定での避難訓練を各1回ずつ毎年行っている。訓練には町内会と老人会の会長にも参加してもらっている。救急救命訓練はまだ全員が受講していない。備品などの準備は法人母体の病院が近隣にあり、そちらで用意している。	救急救命訓練を全職員が受講できる取り組みに期待したい。また、事業所独自で備品などを準備することについて検討することを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に声掛けや関わり方など、ご本人の気持ちを大切にさり気ないケアを心がけている。	研修の中で利用者の尊重やプライバシーについて学び、伝達講習などで内容を共有している。尊厳のある言葉かけに注意し、利用者に呼びかける時は基本的に「名字」を「さん」付けすることとしているが、状況に応じて利用者の思いに沿った対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いを表出できる関係づくりに努め、自己決定ができるように配慮しているが、うまくいかず混乱させてしまうこともあるように思う。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心とならないように、常に利用者のペースに合わせたケアを心がけているが、十分でない時もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの美容室へスタッフと一緒に出かけたり、ご本人の嗜好や希望を取り入れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事について希望を伺い献立に活かしている。また、できるだけ準備や片づけも一緒に行うようにしている。	ユニットごとに、職員は利用者の好みを献立に取り入れ、誕生日にはお寿司や赤飯などを計画し、刺身なども食卓に載せて食事を楽しめるように工夫している。利用者は盛り付け、配膳、下膳を職員と一緒にいき、食卓も一緒に囲んで楽しく会話しながら食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況を把握し、状態に応じた対応を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じ対応しているが、不十分と思われる方もおり工夫が必要と感じている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の様子を見ながら、排泄パターンを把握し、時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	前日の排泄チェック表を見ながら動作を観察し、それとなくトイレに誘導している。排泄の失敗時にはさり気なく自室や浴室に誘導して交換するなど、プライバシーに配慮しながら対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師にも相談しながら、食事や体操を行い、個々の状態に応じた、便秘対策に取り組んでいるが、下剤に頼っている方が多いのが現状。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば入りたい時に入ってもらっている。また、希望のない方へはこちらから声をかけ希望を伺っている。	毎日入浴ができるように用意し、10時頃～16時頃までに実施しているが、希望時には朝食後や夕食後の入浴も可能である。週2～3回の入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者には気分に沿って対応し、入浴を強制せず清拭で対応することもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促しているが、その日の状態に応じ自由に休める環境にある。夜眠れない場合など、ゆっくり話をしたり工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに内服薬の説明書があり、直ぐに確認できる状態にしてあるが、十分に把握できていないので、目的、副作用などの理解に努めていきたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように支援している。楽しみごと、気分転換の支援も日頃から行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況に応じて、買物や近くの喫茶店、ドライブに出かけたりしている。 また、普段いけないところへも出かけている。	周囲を散歩するほか、季節に応じて桜、紅葉見物、山菜採りに出かけ、温泉や水族館など天候を見ながら気軽に外出を支援している。冬場も希望に沿って散歩や車で買い物に出かけており、毎月1回は外食もしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少額管理している方もいるが、殆どが事業所での管理となっているが、買物の時には自分で支払いができるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状況に応じて電話をかける支援を行っている。今年は殆どの方が家族に年賀状を送ることができた。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を工夫し、季節感や生活感を持たせるようにしている。 スタッフの足音、会話など心地よく過ごせるように配慮している。	共用空間は天井が高く、大枠の窓からは季節の移り変わりをゆったりと眺めることができる。居間は広々としており全体を見渡せるが、居室の配置などはプライバシーに配慮した造りになっている。壁には利用者の写真や季節の作品を飾り、すっきりした装飾で品よく環境を整えている。掃除も行き届いており清潔である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置やテーブルの位置をその時々で工夫し対応するようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心でき、過ごしやすい居室づくりを家族と相談しているが、全員とまでは至っていない。	取り付けのクローゼット内はきれいに整頓されており、ソファ、藤椅子、タンス、小物入れなど多くの調度品が持ち込まれているが、居室が8.5畳あるので広さは十分である。家族の写真や趣味の作品などが飾ってあり、心地よい空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり状況に合わせた、環境整備に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	医療法人社団 千寿会		
事業所名	高齢者グループホーム プラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	平成22年10月19日	評価結果市町村受理日	平成22年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「西館ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501248&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の開設時に作成し、廊下の掲示、ならびにスタッフのネームプレート裏に記載し、常に目につくようにしている。 全体ミーティングで確認を行っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(お祭りなど)に参加、老人クラブの方々が事業所に訪れたりと交流を持っているが、日常的な交流までは実践できていないので、今後も積極的に働きかけていきたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長がホームヘルパー2級養成校の非常勤講師となっている。また、実習生の受け入れも行っている。 地域住民の勉強会に施設長が講師として行く予定もある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度、ご家族、町内会、職員の参加に加え、本年度より消防、警察の参加も得られるようになった。 会議内容の報告は文章ならびに申し送りで伝えられ、ケアに役立てている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加している。 また、機会があれば、施設長が市役所担当課へ出向き、報告や指示を頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠を含め、身体拘束をしないケアをスタッフが理解し実践に努めている。(離接する利用者が居るが、一緒に行動するなど、工夫し対応している。)		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講演会に出席するなど学びの機会を設けている。虐待が起こらないように常に話し合い確認するように努めている。 もう一度スタッフでの勉強会を行いたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフが内容を理解できているかわからない。今後の課題としては研修や勉強会を利用しスタッフが理解できるように努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人、ご家族と十分に話し合い、疑問な点、不安な点は丁寧に説明し納得頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置の継続。 話しやすい雰囲気づくりと対話を行い、ご家族からの意見をケアに繋げている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでのミーティングと全体ミーティングを行い、意見、提案を行っている。また、施設長との個人面談もあり、スタッフの話を聴いてくれる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、スタッフが向上心を持って働ける環境に努めている。 研修への参加も積極的に行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会が月に1～2回程度ありスタッフは各自参加している。内部研修会を実施したり、外部の研修を計画的に受講できるように努めている。 様々な研修会の情報をスタッフに提供し、全員が研修を受講できる機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会の研修会に参加し交流を行っている。 外部の研修会でも交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には自宅などへ行き、ご本人、ご家族との面談を行い、状態や思い、不安などを理解できるように努めている。可能であればできるだけ見学にも来て頂くように働きかけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族との話し合いを行い、要望を理解し事業所として何ができるかなどを提案している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談の時、ご本人、ご家族の思いや状況等を確認し、支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスに繋げるようにしている。関係機関との情報交換に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できることへのさり気ない支援により、意欲的に取り組めるように努めている。いつでも自然体で居られるように一人ひとりに目を向け支えている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の思いを聞き入れ、ご本人との交流の機会が増えるように努めているが、まだ十分とはいえない。今後もイベントなど工夫し、ご家族に対して働きかけていきたい。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人・知人との交流、外出を行えるようにしている。入居前から利用していた美容室へ通えるように支援している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの状況や性格に合わせ、関わりがもてるよう支えている。集団が苦手な利用者に対しては個別の対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも、ご家族との連絡をとれる状況にあり、近況報告、相談を受けている。他の施設や入院された時にはスタッフが顔をみせるなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式導入により、以前のケアプランよりその人らしさを見つめることができた。ご本人の意向を尊重し検討に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の状況の説明を行い、ご家族との連携により情報収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、現状の把握を行っている。ユニットでミーティングにより情報交換を行い把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にスタッフは担当制を導入し、意見やアイデアを反映させている。ご家族へは面会の時など時間を頂き、話し合いの場を設け、意見を反映しているが、まだまだ十分とは言えない。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入やスタッフの細かな気づきは申し送りに記入し、全スタッフが把握し計画作成に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、買物などは都度対応している。町内会のお祭りにも参加している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の協力を頂き行事を開催したり、火災避難訓練への参加も呼びかけている。運営推進会議には毎回、消防、警察からの参加もあり、利用者の見守り支援のお願いをしており、成果を出している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の受診継続を勧めているが、殆どの方が運営法人の病院に定期受診している。運営法人の病院から毎週看護師の定期的な訪問があり、利用者の健康管理を行い、主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回定期的な訪問があり利用者の健康管理を行っている。日頃の様子から、心配な事でも気軽に相談している。利用者とも馴染みの関係ができており、訪問を楽しみにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医やソーシャルワーカー、家族と状況の確認をしながら、早期に退院ができるように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、早期に家族へ説明を行っている。実際にその状況に至った時には再度説明を行い、ご家族が理解、納得した上で進めていきたいと思っているが、現状ではまだ経験はない。 また、今後に向け研修会に参加しているスタッフからの伝達を受け安心して取り組めるようにしていきたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全スタッフが閲覧できるようにしているが、殆どのスタッフに経験がなく心配である。定期的な訓練を行い備えたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、昼・夜間想定避難訓練を行い、通報、避難誘導の訓練を行っている。運営推進会議には消防署からの参加もあり、意見を頂いている。地域の方の参加も頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面によっての言葉、声掛けに注意しプライドや尊厳を傷つけないように配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択できるように働きかけ、自己決定できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活が送れるように、話に耳を傾け、落ち着いた日々が送れるように努めているが、その日の状況やスタッフの人数で対応できないこともあった。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った支援には努めているが、日常的な身だしなみについては、もう少しスタッフの気配りが必要。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをメニューに取り入れたり、一緒に買物へ行き選んで頂いたりしている。食事の準備、配膳、片づけは無理のないようにできるだけ一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる物、嗜好品の提供と水分量を記載し、一人ひとりに目を向け支援している。心配な時は運営法人の栄養士に相談している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。本人に行って頂き、不十分なところは支援している。運営法人内に歯科もあるため、状況に応じて歯科受診を勧めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し(排泄表の記入)、紙パンツの方がトイレで排泄できるようになり、布パンツにできた。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、食事の工夫をしたり、乳製品を提供したり状況に応じた取組みをしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定者はおおよそ決めてはいるが、本人の希望を優先している。タイミングが合わず入浴に至らない場合もあるが、工夫して対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促しているが、状態を見て、日中でも部屋で休んで頂いたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容など変更があった時には、都度確認し合い日々の状態を観察している。また、変化があった時など、担当の看護師に相談し、医師に繋いで頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状況や状態に応じ、清掃、食事作りなどをしていただいたり、活気のある生活を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や行事で、果物狩り、外食、地域のお祭りに出かけている。散歩やドライブも良く行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が事業所で管理しているが、その人の能力に応じ、手元に置いて自由に買物をしている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ、家族、友人への連絡を取れる状況にある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、散歩時に利用者と野花を摘み、事業所に持ち帰り思い思いに飾っている。 季節を感じるができるように、飾付を行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごせるように、ソファの配置を工夫したり利用者同士が楽しい時間を共有できる雰囲気づくりの工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時、あるいは生活していく中でご本人や家族と話し合いながら、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に応じ、できることの能力を活かせる支援を心がけている。		

目標達成計画

事業所名：プラタナス三愛

作成日：平成22年12月 3日

市町村届出日：平成22年12月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	センター方式を有効に活用し、一人ひとりに応じたケアプランを実践していきたい。	スタッフ全員がセンター方式が活用できるようにする。	ケアプランにも担当制を導入し、計画作成担当者と一緒にケアプランを作成する。	H22.12～ H23.5
2	1	事業所の理念を基に自分たちでユニット毎にケア理念を創りたい。	ユニット毎にスタッフで話し合いケア理念を創る。	管理者を中心にスタッフ全員で話し合いケア理念を創る。	H23.4～ H23.6
3	30	個人ファイルを見やすくする必要がある	介護記録、医療に関する記録を見やすくすることで、どちらの経過も直ぐに確認できるようにしていく。	インデックスを付けたり、経過記録の様式を変え、確認しやすい個人ファイルをする。	H22.12～ H23.11
4	35	救命救急訓練を全員が受講できるようにしていきたい。	救命救急講習を受講する。	地域の消防に協力して頂きスタッフ全員が受講する。	H22.12～ H23.11
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。